

化学物質を排除した自然素材の家から始まる 豊かな暮らしを提案する地元工務店。



(有)斉藤工務店

代表取締役 斎藤 兆伸

木は呼吸するもの。もとの含水率が高いと湿気が多くなり老朽化も早まります。斉藤工務店では、乾燥機から出荷した時点で床が5%、構造材が10%と、基準値をはるかに下回る含水率の木材を使用。本物の素材に触れることでぬくもりを感じ、癒やしの効果が得られます。同社では、自然素材の良さを味わってもらえるよう、内装・外装ともに木を中心にしたデザインを採用しています。

花巻市北笹間9-16
TEL.0198-29-2362
E-mail 3110@saitokoumuten.com
<https://www.saitokoumuten.com>

継承を機に 自然素材にこだわる

私は、天然素材である無垢材が好きなのですが、無垢材は中までしっかりと乾燥させないと建材として使えないのです。乾燥が甘いと反ったりひび割れたりするので、みんな手頃な集成材を使うのです。集成材は薄い板を接着剤で貼り合わせたもので、本物の一枚板じゃない。僕は本物の無垢材、自然素材100パーセントでやりたかったのです。それで父と対立したのです。

なぜ、そこまで自然素材にこだわるのかというと、僕は子どものころからのづくりが好きで、その中でも特に木、木工が好きだったこと。そして、初めて開催したオープンハウスで出会ったお客様の言葉が大きいです。
オープンハウスで建てた家は、初

めて手がけた自然素材の家でした。しかし、建てる技術があまりなくて、仕上げ材のみに自然素材を使い、壁材をすべて漆喰にしました。そこに、たまたまなのですが、アトピーや喘息をお持ちの方が3組いらつしやって、中に入った途端、「呼吸がしやすい」とおっしゃったのです。いろいろな家を見てきたけれど、この家は楽に呼吸ができる。自然本来の建材にパワーあることを改めて知り、そういう方々のためにも、本気で自然素材の家に取り組み、継続しようと思ったのです。

そして、自然素材の家づくりをすすめている「夢ハウス」と出会いました。夢ハウスは、含水率10パーセント以下の特許技術を利用した「オリジナル無垢乾燥材」を使用し、自然素材と大工の建築技術の力を使って家を建てていました。

経営方針も家づくりの考え方も僕の思いとあっていた。皆さん、快適だとおっしゃいます。玄関を開けた途端、木の香りがして、心地よい。シックハウスの原因となるホルムアルデヒドを全く含まない無垢材、調湿効果のある壁紙や漆喰、冬でも素足でいられる床材を使用すると、まるで森の中にいるような安堵感が得られるのです。木造建築の耐久性を心配される方がいらつしやいますが、さつき話したとおり、しっかりと乾かした無垢材は耐久性に優れているのです。

内と外をつなぐ 外構を大切に

当社では、家の内と外のつながりを大事にしています。内と外をつなぐ外構も大事にしています。岩手の家は建てたらアスファルトを敷いて、カーポートを建てて終わりというものが多くですが、当社は庭づくりにも力を入れています。というのは、暖炉の炎を見て癒されるように、窓から見える緑のある風景は心地よい雰囲気を与えてくれるのです。

日本の住宅は、窓のちぐされと思うのです。外からの視線が気になり、カーテンがいつも閉まっている。これでは窓をつくった意味がなくなってしまう。窓と外の間に植栽やウッドデッキがあれば違ってくる庭の風景が緑のある一枚の絵みたいなきに仕上げるを意識しています。「自然の共有」というか。アウトドアブランドの「スノーピーク」の言葉で「人生に、野遊びを。」というのがありますが、「衣食住働遊」のテーマで自然を感じる価値観が好きなのです。そういう雰囲気家を家の中でも楽しめればと思うのです。

自然素材の 「経年美化」を楽しむ

新築でもリノベーションでも、継続していくことが大事と考えています。岩手はまだ新建材の家が多いので、自然素材の家を普及し続けていきたいです。自然素材のいいところは、色の経年変化を楽しむことなのです。僕は「経年美化」と言っているのですが、木の色がどんどん変わっていくので、それを楽しみながら暮らすこともおもしろさを伝えていきたいです。

施工例



揺さ落として仕上げた《そとん壁》の外壁。心地よく暮らす「木のひらや」